

目指す学校 「明るいあいさつと笑顔が輝く学校」

～ すべての教職員で 児童のチャレンジを応援する ～

1 学校教育目標

「社会に開かれた教育課程」を理念に掲げながら、持続可能な社会の実現に向けた時代の趨勢を捉え、これからの国際社会の中で自らの感性を豊かに働かせ、人と社会、自然環境と調和して主体的にかかわり、課題解決していく児童の育成を図る。そのために、他者と協働しながら合意形成を図り、よりよい自己を実現する力を身に付けさせる。そこで次のとおり、学校の目標と、これを踏まえて育成を目指す資質・能力を設定する。

- ◎ 学び考える力（知） … 自ら課題を発見し論理的に考え、主体的に課題の解決に向けて取り組む児童（問題解決力）
- 思いやる心（徳） … 自らのよさと友達のよさに気付き、人や自然となかよく共生できる児童（人間関係形成力）
- 明るく元気（体） … 自らあいさつができて心身ともに健康で、目標に向かって調整・努力し最後までやり抜く児童（実践力）

2 目指す学校像

目指す学校像に「明るいあいさつと笑顔が輝く学校」を掲げ、「すべての教職員で、児童のチャレンジを応援する」をキャッチフレーズに実現を目指す。

3 中期的目標と方策

(1) 毎日明るく元気に学校生活を過ごす

○児童の自己有用感、自尊感情の向上

特別の教科道徳、特別活動をはじめ全教育活動を通して、友達の良さと自らの良さを認め大切に、人や自然となかよく共生できる児童を育てる。

○体力向上

運動朝会及び行間体育活動（矢崎アクティブタイム）・ふちゅうロープチャレンジ・持久走等の取組を通して、運動に親しむ態度の育成と体力の向上を図る。

(2) けじめをつけて、最後までやり抜く

○確かな学力の定着を図るために、校内研究を中核として学習指導要領に基づく教育課程の充実、ユニバーサルデザインの3観点である焦点化・視覚化・共有化を意識した授業を創造する。

○問題解決型の授業で、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善。

○ICTの効果的な活用。

タブレットや大型ディスプレイ、デジタル教科書の有効活用、プログラミング教育の継続。

(3) たくさんのかかわりの中で育む

○学年経営を充実させ、児童に寄り添った指導（交換授業、副担任制）。

○たてわり班活動の充実、他者理解・他者尊重の重視。

○低中高学年ブロックで、異学年交流の機会（様々な教科、運動会・遠足等の諸行事を活用して）。

○地域を素材とした体験的な学習。

(4) 安心・安全で、心地よい学校

○気持ちのよいあいさつ（語先後礼の励行）と返事、感謝の言葉をしっかりと伝えられる児童の育成。

○環境整備、安心・安全・きれいな学びの場づくり推進。

○チーム矢崎として、全教職員で協力し、子供の育成に関わる意識の醸成。

4 今年度の取組目標

(1) 教育活動の目標と方策

① 確かな学力の定着を目指す教育活動の実践

ア すべての教育活動において府中市立小・中学校の教育課程編成に向けたグランドデザインに示された4つの視点（「発見すること」「対話すること」「決定すること」「表現すること」）を重視し、児童が主体となる教育活動を行う。

イ 「矢崎スタンダード（学習規律）」「置き勉強スタンダード」「筆箱スタンダード」を確立し、全校一致の指導体制を構築する。

ウ 朝学習（東京ベーシックドリル・ミライシードの活用や読書活動）、家庭学習（学年×10分）で基礎基本の定着を図る。朝学習では、個別指導を取り入れるなどより有効な活用方法に取り組む。

エ 問題解決型の授業で、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。

オ 毎月1編の詩を児童に紹介し、全校児童での暗唱に取り組むことにより、語彙の獲得と豊かな言語感覚を身に付けさせる。

カ 大型ディスプレイやタブレット、デジタル教科書を有効活用し、視覚化・個別化を意識した授業を展開するとともに「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を図る。

キ 各学年の学習成果発表の場としての学芸発表会、図工及び家庭科作品展をそれぞれ毎年実施し、文化的行事を通して発達段階に応じた表現力、集団活動を通じた社会性を育む。

ク 学力調査や学習状況調査、体力調査の結果を基に本校の課題を分析し、実現可能な授業改善に活かす。また、作成した授業改善推進プランを年間2回検証し、達成状況をホームページで

公開する。

② 基本的な生活習慣の確立と豊かな心の育成

ア 気持ちのよいあいさつ（語先後礼）と返事を心掛け、感謝の気持ちをしっかりと言葉で伝えられる児童を育成し、皆が気持ちよく過ごせる学校環境を作る。

イ 「温かい人間関係づくり」を土台として、児童同士、児童と教師との良好な関係を構築する。児童の「生活アンケート」を毎月実施し、いじめ防止の指導を徹底する。子どもたちの悩み等の解消に努めるとともに、いじめの早期発見、組織的な早期対応につなげる。児童会主催による「いじめ防止のためのスローガンづくり」に全学級で取り組むことにより、児童に自分事として「いじめ防止」に関わらせる。また、ふれあい月間・エールウィークでは、肯定的な評価を全校児童に紹介することで児童の自己肯定感向上を図る。

ウ 不登校児童に対しては、定期的に校内委員会を開いて学校全体で組織的かつ具体的に対応する。また、サポートルームの活用により児童の居場所を確保するとともに、タブレット端末を活用した学習支援や社会的な自立を促す。

エ 可能な限り早い時期に5年生とスクールカウンセラーの全員面接を行い、いつでも相談しやすい体制を作る。

オ 道徳科の授業において、いじめ防止の授業を各学級で年間3回実施する。また学年内で道徳の交換授業等を学期に1回以上実施し、教材研究の充実を図るとともに、児童理解を深める。

カ 交通安全教室、セーフティ教室、水害を想定した避難訓練の実施等、安全教育を充実させるとともに、防災教育を実施し、児童自身で自他の安全に配慮して行動しようとする意識を育てる。

キ 毎月1回の安全朝会を通して児童自らが自分の安全を守るために行動し、地域社会の安全に貢献することのできる資質や能力を育成する。

③ 健康教育の充実と健やかな体の育成

ア 体育科の学習の授業改善を図るとともに、体づくり運動を授業の中で充実させ、体力向上月間での短縄、ふちゅうロープチャレンジ、持久走の取組を通して、児童に運動の楽しさを体感させ、運動の日常化を図る。

イ 府中市内を拠点に活動するスポーツトップチームと連携した取組を推進する。特に本校近隣で活動するサントリーサンゴリアスとの連携を図りながら、中・高学年でラグビーを、低学年でタグを使ったゲームを行い、ラグビーの町府中として系統的にラグビーに対する素地を育む。

ウ 6月から9月の4か月間を「熱中症予防配慮期間」として位置づけ、熱中症予防の徹底を図る。この間は中休みや昼休みを室内で過ごすよう児童に推奨し、校庭での活動を極力避けることで、児童の安全を守る。

エ 年間11回の運動朝会を行い、体をスムーズに動かす能力を鍛える「コーディネーショントレーニング」やリズム感を養うダンスに全校で取り組む。また、行間体育「矢崎アクティブタ

イム」での取組を通して、運動に親しむ態度を育成する。

オ 毎月1回発行する「学校だより」に「家庭でできる！体力向上」のコーナーを設け、家族で取り組める運動を紹介し、保護者への啓発を行う。

カ 給食主任を中心として、給食指導・食育・食物アレルギー事故防止対策等が組織的に推進できるよう年度当初から保護者面談を進め、全校体制を早期に確立する。

④ 教職員の研鑽と指導体制の確立

ア 教育職員自己申告書、年間指導計画、週毎の指導計画に基づき、常に計画・実施・評価・改善を行い、教育内容の改善・充実を図る。

イ 学習指導要領の趣旨を生かし、本校の児童の実態により即した「授業改善推進プラン」を7月中に作成し、日々の授業実践を通して年間2回検証・改善する。

ウ 主任教諭や学年主任を中核としたOJTを推進し、経験年数の少ない教員の授業力や児童理解力の育成を日常的に図る。また教員の学びたいニーズに合致したミニ研修会を計画的に設定し、学ぶ集団としての組織的な学校の体制を確立する。

エ 自己申告に基づく授業参観と相互に指導・助言する機会を各学期2回以上設定する。

オ 校内研究で研究主題「なんてだろう？やってみたい！と課題に向き合い、粘り強く取り組む児童の育成」のもと、生活科・ふるさと（総合的な学習の時間）を研究教科に絞り、主体的・対話的に学ぶことのできる児童の育成を目指す。

カ 副校長等校務改善支援員や学校経営支援員、ICT支援員を効果的に活用し、計画的・効率的な校務のPDCAを展開する。

キ 専科教員（副担任）等を交えた拡大学年会を学期に1回以上行い、できる限り多くの情報共有をし、児童理解を促進する。

⑤ 開かれた学校づくりの積極的な推進

ア 道徳授業地区公開講座、授業公開などの実施に当たっては、事前の案内を周知することによってできるだけ多くの参加者が来校できるようにするとともに、意見交換等を通して家庭・地域との連携を深めることができるよう、時間の設定及び内容の工夫をする。

イ 保護者・教職員を対象とした学校評価アンケートを実施する一方、児童が行う自己評価の項目を共通化することによって、認識の違いを客観的に認識し、教育活動の改善に反映させる。

ウ 地域コーディネーター及び矢崎小スクール・コミュニティ協議会委員を中心に、学校支援に向けた地域の力を結集して協働体制を築き、地域の特色を生かした学校応援団づくりを目指す。

エ 副校長等校務改善支援員・エデュケーションアシスタントを含む学校経営支援員・ICT支援員を最大限に活用し、校務の整理を進めるとともに、学校だより・ホームページ（学校ブログ）・学校内掲示等を通して、本校の特色ある教育活動の様子を積極的に発信する。

オ スクール・コミュニティ協議会主催事業として漢字検定及び算数検定を年に1回ずつ実施す

る。

カ 府中市教育委員会・府中市子ども発達支援センター「はばたき」・子育て世代包括支援センター「みらい」・児童相談所・警察等外部機関との連携を深め、迅速かつ的確な問題解決を図る。

⑥ 「小中連携・一貫教育の充実」と「幼保小」の連携強化

ア 三中学区スタンダード「み（身だしなみ）・そ（掃除）・あ（あいさつ）・じ（時間）」のもと、「学び」と「育ち」の連続性の推進を図り、「学び」では、教科の授業展開を小中が連携して取り組み、学びの連続性を実現していく。「育ち」では、重点指導課題を定め、連携した指導を行う。

イ 年3日確保されている「小中連携の日」には相互授業参観の後、各分科会を中心に小中での実際の交流場面を洗い出し、実現していくとともにさらなる充実した活動を見出す。授業では、府中市立小・中学校の教育課程編成に向けたグランドデザインで示された4つの視点に力を入れて取り組む。

ウ 管理職同士の連携を密にするとともに、小中連携コーディネーターを活用し、連携強化と活動の創造を促す。

エ 近隣の幼稚園・保育所との交流授業を行うとともに、「府中の架け橋プログラム」の内容を踏まえ、1年生の入学当初にスタートカリキュラムを生活科や余剰時間を活用して編成し、幼児期の教育を円滑に接続できるようにする。年度当初に近隣の幼稚園・保育所等との交流を行い、児童が安心して小学校生活をスタートできるよう、相互理解を深める。

(2) 重点目標（数値目標）

- ① 毎日の学校生活が楽しいと思える児童90%以上
- ② 学校の授業がよくわかると思える児童85%以上
- ③ 漢字・計算の定着率が85%以上
- ④ 本を読むことが好きだと思える児童80%以上
- ⑤ 家で「10分×学年」の家庭学習をする習慣が身に付いている児童80%以上
- ⑥ 気持ちのよいあいさつができる児童90%以上
- ⑦ 遊んだり相談したりする友達がいる児童90%以上
- ⑧ 「自分にはよいところがある」と考える児童80%以上
- ⑨ 学校のきまりを守って行動できる児童90%以上
- ⑩ 自分の安全を自分で守ろうと心掛けている児童90%以上